

定期作況報告

平成 1 5 年 8 月
(8 月 2 0 日現在)

北海道立北見農業試験場

1 . 気 象 経 過

7月下旬：最高気温・最低気温・平均気温は平年に比べて極めて低く、7月23日には最低気温が6.5℃まで下がった。降水量は平年より少なかった（平年比27％）。日照時間は平年よりやや多かった（平年比161％）。

8月上旬：最高気温は平年並、最低気温は平年より高く、平均気温は平年よりやや高かった。降水量は平年より極めて多かった（平年比576％）。日照時間は平年よりやや少なかった（平年比65％）。

8月中旬：最高気温・最低気温・平均気温は平年よりやや低かった。降水量は平年並であった（平年比159％）。日照時間は平年並であった（平年比116％）。

以上のことから、この1か月間（7月下旬～8月中旬）は、気温は平年より低く、降水量は多く、日照時間は平年並に経過した。8月上旬の降水は大半が8月9日から10日にかけての台風10号によるもの（134.5mm）である。

注）降水量、日照時間についての平年値との比較表現は、各旬における過去10年間の出現値の幅に基づいているため、「平年並」に含まれる値の範囲は旬毎に異なる。

気 象 表

項 目 月 旬	平均気温（℃）			最高気温（℃）			最低気温（℃）		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
7月下旬	15.1	20.1	5.0	20.3	24.6	4.3	10.3	16.0	5.7
8月上旬	20.0	19.1	0.9	24.0	23.8	0.2	16.9	14.8	2.1
8月中旬	17.5	18.8	1.3	22.1	23.2	1.1	13.4	14.8	1.4
平 均	17.6	19.3	1.7	22.2	23.9	1.7	13.7	15.2	1.5

項 目 月 旬	降水量（mm）			日照時間（h）		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
7月下旬	11.5	43.2	31.7	62.3	38.7	23.6
8月上旬	162.5	28.2	134.3	27.9	42.7	14.8
8月中旬	46.5	29.2	17.3	44.5	38.4	6.1
合 計	220.5	100.6	119.9	134.7	119.8	14.9

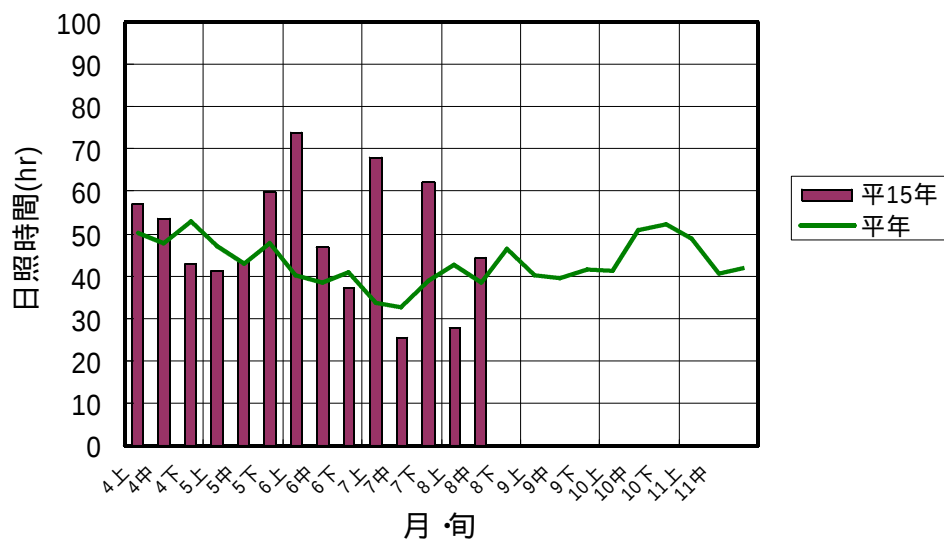
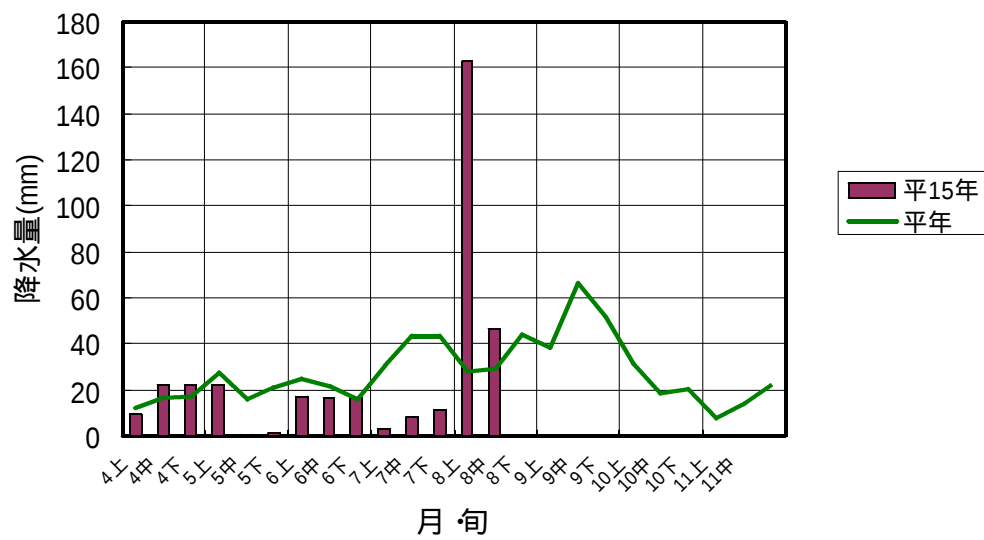
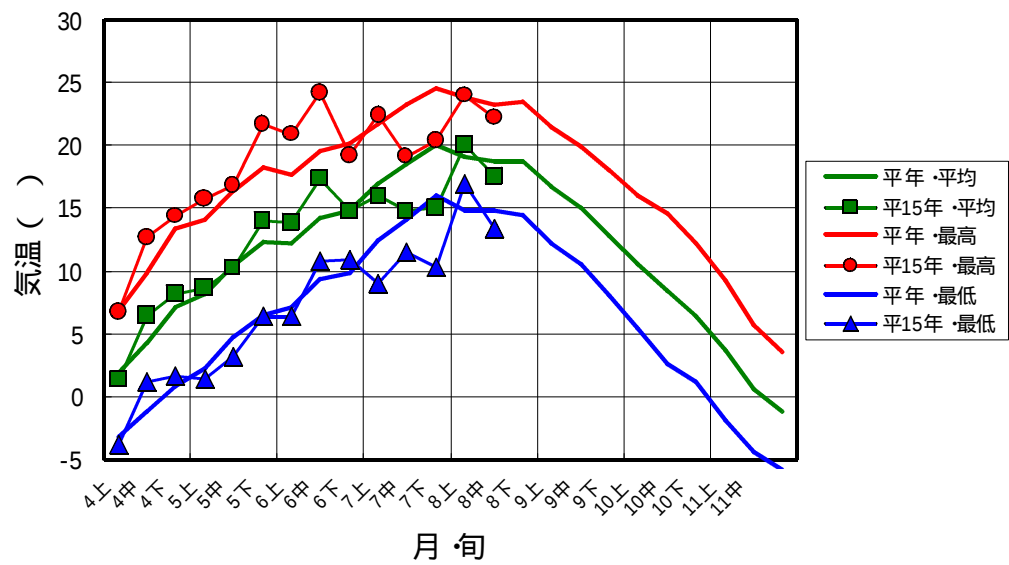
注） 1）観測値は、置戸町境野のアメダスデータである。

2）平年値は前10か年間の平均である。

7月下旬の日別気温推移

日	平均気温	最高気温	最低気温
21日	14.7	21.6	10.6
22日	15.3	21.3	10.8
23日	13.4	19.3	6.5
24日	14.5	21.6	8.4
25日	16.4	23.9	8.2

日	平均気温	最高気温	最低気温
26日	16.5	21.9	9.7
27日	13.6	15.9	10.8
28日	13.1	16.4	9.9
29日	16.6	24.0	11.5
30日	15.0	17.3	12.5
31日	16.8	20.6	14.7



２．当場の作況^{注)}

注) 本作況報告は北海道立北見農業試験場の平年値に対する生育良否に基づいたものであり、網走支庁管内全体を代表するものではありません。

１) 秋まき小麦 作 況：良

事 由：７月中旬・下旬の平均気温は平年より極めて低かったため、その間の登熟は緩慢となり、成熟期は「ホクシン」で平年より３日遅くなった。やや早生から中生の品種では登熟期間が平年より長く、「ホクシン」では平年より７日長くなったため、千粒重は、「タクネコムギ」を除き平年より重く、穂数、穂長も平年を上回っており、また、倒伏の影響もほとんどなかったため子実重は極めて多収となった。

以上のことから目下の作況は良である。

品 種 名	成熟期（月・日）			稈長（cm）			穂長（cm）			穂数（本/m ² ）		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
タクネコムギ	7.22	7.23	1	96	95	1	8.4	7.7	0.7	929	839	90
ホクシン	7.28	7.25	3	89	88	1	9.3	8.5	0.8	777	708	69
チホクコムギ	8. 1	7.27	5	92	91	1	7.2	7.2	0.0	823	690	133
ホロシリコムギ	8. 1	7.29	3	101	97	4	8.8	8.5	0.3	903	723	180

品 種 名	子実重（kg/10a）			千粒重（g）		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
タクネコムギ	694	454	240	37.8	37.7	0.1
ホクシン	868	559	309	40.2	37.7	2.5
チホクコムギ	781	525	256	42.2	36.0	6.2
ホロシリコムギ	736	533	203	45.7	41.8	3.9

注) 平年値は前７か年中、「タクネコムギ」は平成12年、14年を、「ホクシン」は平成10年、14年を、「チホクコムギ」は平成８年、14年を、「ホロシリコムギ」は平成８年、12年をそれぞれ除く５か年の平均。「ホクシン」の播種量は255粒/m²、その他の品種の播種量は340粒/m²。

２) 春まき大麦（二条大麦） 作 況：平年並

事 由：７月下旬は気温が低く経過し、登熟はゆっくり進んだ。成熟期は平年より２日遅く、登熟期間は平年より４日長い36日であった。穂数はほぼ平年並で稃実粒数はやや少ないが、登熟期間の日照時間が長く、倒伏の発生も無かったため、穀粒の充実は良好であると考えられる。

以上のことから目下の作況は平年並である。

なお、子実は現在乾燥中である。

品 種 名	成熟期（月・日）			稈長（cm）			穂長（cm）			穂数（本/m ² ）		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
りょうふう	8. 8	8. 6	2	76	87	11	6.3	6.3	0	557	604	47

品 種 名	稈実粒数（粒/穂）			子実重（kg/a）			整粒歩合（％）		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
りょうふう	19.8	21.1	1.3	-	37.0	-	-	91.8	-

注）平年値は前7か年中、平成9年、12年を除く5か年の平均。

3）春まき小麦 作 況：やや不良

事 由：6月中旬までの高温により出穂期は平年より6日早くなったが、7月、8月の低温により登熟は緩慢となり、「ハルユタカ」の成熟期は、平年並の8月14日であった。登熟期間は平年より6日長く、そのため千粒重が大きくなることが予想されるが、調査を行った圃場は干ばつの影響を受けているため穂数がかかなり少なく、子実重は平年をやや下回ることが予想される。

以上のことから目下の作況はやや不良である。

品 種 名	成熟期（月・日）			稈長（cm）			穂長（cm）			穂数（本/m ² ）		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
ハルユタカ	8.14	8.14	0	78	85	7	8.2	8.2	0.0	421	493	72

注）平年値は前7か年中、平成9年、11年を除く5か年の平均。

4）とうもろこし 作 況：平年並

事 由：7月中旬・下旬の低温で生育は一時停滞したが、8月上旬の気温がやや高く降水もあったため回復し、絹糸抽出期と葉数は平年並であった。

以上のことから目下の作況は平年並である。

品 種 名	雄穂開花期(月・日)			絹糸抽出期(月・日)			草丈 (cm)			出葉数 (枚)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
ディアHT	8. 6	8. 4	2	8. 7	8. 7	0	250	263	13	14.2	14.0	0.2

注) 平年値は前5か年の平均(平成10年に供試品種を変更したため)。

5) 大 豆 作 況 : やや不良

事 由 : 7月中旬(平年より約4 低い)に続いて、7月下旬も気温が低く、平均気温は平年を5下回った。8月上旬の平均気温は平年よりやや高く、中旬はやや低かった。低温による栄養生長への影響は小さく、主茎長、主茎節数および分枝数はほぼ平年並であった。しかし、開花前～開花期の低温により着莢障害が起き、莢の伸張も停滞しているため、着莢数は「トヨコマチ」でやや少なく、「トヨホマレ」ではかなり少ない。

以上のことから目下の作況はやや不良である。

6) 小 豆 作 況 : 不良

事 由 : 7月中旬(平年より約4 低い)に続いて、7月下旬も気温が低く、平均気温は平年を5下回った。8月上旬の平均気温は平年よりやや高く、中旬はやや低かった。栄養生長、生殖生長ともに7月中旬・下旬の低温の影響を受け、主茎長は平年より短く、「サホロショウズ」では分枝数も少なかった。開花前～開花期の低温により着莢障害が起き、莢の伸張も停滞しているため、着莢数はかなり少ない。

以上のことから目下の作況は不良である。

7) 菜 豆 作 況 : 平年並

事 由 : 7月下旬の平均気温は平年を5 下回り、8月上旬以降の平均気温は、ほぼ平年並であった。低温の影響は小さく、草丈、主茎節数および分枝数は概して平年並で、着莢数は金時は平年並、手亡は平年よりやや多かった。

以上のことから目下の作況は平年並である。

種類	品 種 名	開花始（月・日）			主茎長・草丈（cm）			主茎節数（節）		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
大豆	トヨコマチ トヨホマレ	7.21	7.21	0	65.3	62.5	2.8	11.9	11.0	0.9
		7.24	7.24	0	64.1	60.7	3.4	12.2	11.7	0.5
小豆	エリモショウズ サホロショウズ	7.30	7.27	3	37.4	49.5	12.1	11.9	12.6	0.7
		7.26	7.25	1	19.1	43.9	24.8	9.7	10.5	0.8
菜豆	大正金時 雪手亡 福勝	7.6	7.13	7	37.0	41.6	4.6	5.8	5.2	0.6
		7.21	7.23	2	56.7	55.4	1.3	10.8	9.5	1.3
		7.7	7.14	7	36.7	45.8	9.1	5.9	5.3	0.6

種類	品 種 名	分枝数（本/枚）			着莢数（個/株）		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較
大豆	トヨコマチ トヨホマレ	4.9	5.4	0.5	58.3	66.7	8.4
		4.9	4.5	0.4	48.5	70.6	22.1
小豆	エリモショウズ サホロショウズ	4.1	3.6	0.5	14.2	28.6	14.4
		2.7	4.3	1.6	22.5	36.8	14.3
菜豆	大正金時 雪手亡 福勝	4.7	4.1	0.6	19.6	20.4	0.8
		7.3	7.5	0.2	48.2	40.0	8.2
		4.2	3.5	0.7	19.4	18.2	1.2

注）平年値は、大豆は前7か年中平成10年、12年を除く5か年、小豆は前8か年中平成10年、14年および試験を中止した12年を除く5か年、菜豆は前8か年中平成11年、13年および再播した10年を除く5か年の平均。

9）てんさい 作 況：やや良

事 由：8月9日から10日にかけての大雨(134.5mm)による被害はなく、乾燥状態が解消されたために地上部・地下部共に生育は平年をやや上回っている。また、昼夜の寒暖の差も大きいため、糖分の蓄積も順調である。

以上のことから目下の作況はやや良である。

栽培法	品 種 名	草丈 (cm)			葉数 (枚)			根周 (cm)		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
移植	モノホマレ ストーク	62.3	60.5	1.8	28.5	27.0	1.5	26.6	26.9	0.3
		63.3	60.1	3.2	27.0	27.2	0.2	30.6	30.3	0.3
直播	モノホマレ	62.9	64.5	1.6	28.2	25.5	2.7	25.4	24.5	0.9

栽培法	品 種 名	茎葉重 (g/個体)			根重 (g/個体)			根中糖分 (%)		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
移植	モノホマレ ストーク	915	803	112	527	494	33	14.03	13.33	0.70
		1016	885	131	516	503	13	14.59	13.39	1.20
直播	モノホマレ	873	843	30	432	382	50	12.94	12.49	0.45

注) 平年値は前7か年中、移植「モノホマレ」は平成10年、14年を、「ストーク」は平成10年、13年を、直播は平成10年、11年をそれぞれ除く5か年の平均。

8) ばれいしょ 作 況：不良

事 由：8月上旬に大量の降雨があったが、7月中の著しい干ばつのため、両品種とも地上部生育の停止が例年より早くなった。そのため、「男爵薯」では茎葉部の枯凋が平年よりもかなり早まっており、茎長・茎数の調査は実施できなかった。「コナフブキ」も茎長が平年よりも大幅に下回っている。上いも重も干ばつを反映して「男爵薯」では1,393kg/10a、「コナフブキ」では533kg/10a平年値を下回っている。一方でん粉価は、7月の気温が低かったことから、「男爵薯」では1.5ポイント、「コナフブキ」では1.1ポイント平年値を上回った。

以上のことから目下の作況は不良である。

品 種 名	茎長 (cm)			茎数 (本/株)			上いも重 (kg/10a)			でん粉価 (%)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
男爵薯	-	54	-	-	3.6	-	2957	4350	1393	17.0	15.5	1.5
コナフブキ	50	84	34	3.2	2.9	0.3	2913	3446	533	21.9	20.8	1.1

注) 平年値は前7か年中、「男爵薯」は平成9年、14年を、「コナフブキ」は平成9年、11年をそれぞれ除く5か年の平均。

10) 牧草 作 況：不良

事 由：8月8日に収穫したチモシー混播・単播草地の2番草は、草丈が7～29cm低く、乾物収量の
 平年比が混播草地で90、単播草地で63であった。1番草からの合計乾物収量の平年比は両草地とも84
 であった。2番草における低収は、7月の降水量が平年の19%だったことから、少雨が主な原因と考
 えられる。

以上のことから目下の作況は不良である。

草地	番草	草 種	草丈 (cm)			マメ科率 (%)			乾物率 (%)		
			本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
混播	2番草	チモシー アカクローバ	64 71	84 78	20 7	83.9	83.4	0.5	15.9	13.7	2.2
単播	2番草	チモシー	44	73	29	-	-	-	23.2	23.0	0.2

草地	番草	生草収量 (kg/10a)				乾物収量 (kg/10a)			
		本年	平年	比較	平年比 (%)	本年	平年	比較	平年比 (%)
混播	1番草	2456	3610	1154	68	500	627	127	80
	2番草	2162	2829	667	76	343	382	39	90
	合計	4618	6439	1821	72	843	1009	166	84
単播	1番草	1472	1751	279	84	382	413	31	92
	2番草	437	719	282	61	102	162	60	63
	合計	1909	2470	561	77	484	575	91	84

- 注) 1. 1番草・2番草の収穫日はそれぞれ6月18日、8月8日である。
 2. 各草種の品種はチモシーが「ノサップ」、アカクローバが「サップロ」である。
 3. 混播草地の乾物率は、チモシーとアカクローバを併せた全体についてのものである。
 4. 平年値は前7か年中、混播草地では平成8年と11年を、単播草地では8年と14年をそれぞれ
 除く5か年の平均。

11) たまねぎ 作 況：良(参考)

事 由：7月下旬の低温により地上部の生育は停滞した。8月上旬の気温はほぼ平年並に経過し、
 多雨の影響により土壌中の水分が多くなったため球肥大は急速に進んだ。8月中旬はやや低温で平年

並の降水量であり、現時点において白斑葉枯病等の発生はほとんど認められていない。供試した品種全体として球肥大期は平年より10日前後早まり、葉数は平年よりやや少ないが草丈および葉鞘径はほぼ平年並で葉身乾物中は平年をやや上回っている。球径および一球重は平年を大きく上回っている。

以上のことから目下の作況は良（参考）である。

品 種 名	球肥大期（月・日）		
	本年	平年	比較
スーパー北もみじ	7.24	8. 2	9
北もみじ	7.27	8. 8	12
改良オホーツク 1 号	7.17	7.27	10

品 種 名	草丈（cm）			葉数（枚）			葉鞘径（mm）		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
スーパー北もみじ	76.8	72.5	4.3	8.5	8.7	0.2	20.0	19.5	0.5
北もみじ	79.4	76.3	3.1	7.5	7.8	0.3	18.5	18.4	0.1
改良オホーツク 1 号	70.0	67.9	2.1	7.2	7.8	0.6	15.3	17.2	1.9

品 種 名	球径（mm）			一球重（g）			葉身乾物率（％）		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
スーパー北もみじ	75.9	61.6	14.3	212.0	134.4	77.6	11.4	8.5	2.9
北もみじ	71.2	59.0	12.2	187.3	117.0	70.3	10.4	8.4	2.0
改良オホーツク 1 号	77.0	66.5	10.5	232.7	151.2	81.5	9.0	8.2	0.8

注）平年値は固定ほ場（火山性土）の成績、本年は沖積土の成績のため、「参考扱い」とする。前7か年中、「スーパー北もみじ」は平成12年、13年を、「北もみじ」および「改良オホーツク 1 号」は平成10年、12年をそれぞれ除く5か年の平均。